

日時:2016年9月14日(水) 10時00分～12時03分

会場:廿日市高齢者ケアセンター 1階 会議室

I ご挨拶

- ・ 村岡施設長より開会のご挨拶
- ・ 本日の次第のⅡとⅢについて訂正とお詫び

II 委員自己紹介 出席者(順不同・敬称略):

【外部委員】 加藤淑子(民生委員・児童委員), 堀川文枝(元在宅サービスご利用者家族), 木岡直美(元施設サービスご利用者家族), 織田智子(認知症専用デイご利用者家族), 廿日市市社会福祉協議会(中村), 廿日市市高齢介護課(矢野),

【内部委員】 村岡施設長, 加芝(施設サービス部副部長), 菊地(デイサービス), 谷栖(特別養護老人ホーム), 酒井(ケアハウス), 瀬戸口(居宅介護支援), 小野(在宅サービス部 副部長兼事務局)

III ~~運営会議の主旨、設置規程の説明~~ 本日の運営推進会議について

- ・ 事務局より配布資料を説明
- ・ 前回のプレ会議でいただいた気づきを踏まえて、今回の内容を検討し、基本的にはプレ会議と同様の内容としている
- ・ 今後、気づきがあれば随時見直しをしていくこととしている

IV 議題

1. 半期(2016年3月～2016年8月)の活動状況及び、近況報告(前回プレ会議以降)

- ・ 別紙1, 2について、内部委員より事業所概要(職員数・定員・サービス内容など)も含めて説明

(1) 施設部門

① 特養(加芝委員)

- 稼働率を中心に、別紙1, 2に沿って説明
- 夏場の稼働率の低下への取り組みや人材育成についての取り組みを報告

② ケアハウス(酒井委員)

- 1人部屋について、1月末に退去者があり、入居待機者数名に連絡、何件かは面談も行ったが、入居に至らず(待機者は用紙上は60名程度おられる)
- 2人部屋は、7月に1部屋退去者があったが、すぐに次の入居があり、空き部屋無
- 入居者満足度調査を実施し、集計中
(中村委員)⇒満足度調査は、誰かからの要望などがあって行っているのか?
(酒井委員)施設で独自の物を定期的 to 実施している
(村岡委員長)当施設は2人部屋が9部屋あり、2人部屋入居者の方がお1人になられると、1人部屋に移っていただくようになる。新たに1人部屋に入居していただくより、2人部屋から移っていただく方が制度的にも優先されるため、1人部屋の待機者の方が増加した。申し込みのタイミングで入居していただくことができないと、タイミングが合わず、申し込みをされていても入居に至らないことがあるため、実際の待機状況を1件1件確認している

(2) 在宅部門

① ショートステイ(加芝委員)

- 稼働率が 100%を超えている理由は、特別養護老人ホームの一時的に空いているベッドを、ショートステイでご利用いただいた。
- 稼働率が低下している6. 7月は、定期的にショートステイをご利用されている方が体調不良で利用がなくなったため
- 看取りの段階でご利用いただくことも増えており、最近でも3名の方が同時期にご利用された。訪問看護やかかりつけ医と連携して対応している

(村岡委員長)当施設の2階は特別養護老人ホーム54床、ショートステイは16床、合計70床だが、特別養護老人ホームのご利用者が一時的に入院等で空きベッド状態になった際に、ショートステイでそのベッドを使用してもよい事になっている

(堀川委員)以前、ショートステイを利用していた時には、3か月前からの予約の仕組みとなっていたので、早めに先の予定を立てるのに苦労した経験が有る。急に必要な時に利用できる良い方法がないか？

(矢野委員)緊急受け入れ加算の算定はしているか？

(加芝委員)その算定の場合も、そうでない場合もある

(瀬戸口委員)なじみの施設を複数持つておくことも方法

(堀川委員)知人で、以前、第2清鈴園のショートステイを利用した家族から、体調の変化に気づいてもらえず、家族が対応する段階では、高熱状態でそのまま入院となったので不満があると聞いたことがある

(木岡委員)医療行為があるとショートの利用が難しかった経験が有るが、現在はどうか？

(加芝委員)医療行為が一定の研修を受けることで一部可能になったといわれているが、そのことで、逆に医療行為ができないことが明確になったという見方もでき、以前よりも益々対応が難しくなっていると感じている。医療行為があるから利用できないと言うよりは、個別の状態に応じて出来ることはさせてもらっている。鼻腔の経管栄養の方はお受けできる体制にない。

② デイサービス(菊地委員)

- 稼働率の低下している月は、体調変化による入院や老人保健施設への入所など
- デイサービスの基本利用時間は、9:30~15:30, 9:30~16:40 となっている。~16:40 までを利用されている方の過ごし方を充実させていくための取り組みに着手している。これまでのとりくみでも、発話量や良い表情の変化が見られている

③ お〜い予防教室(菊地委員)

- 毎週月曜日に、地御前北2丁目集会所で認知症予防を目的に実施。要支援、事業対象者が対象だが、非該当の方もご利用いただける。
- 出張コグニサイズを実施している。

(小野委員=加藤委員の声掛けで、健康づくり応援団対象の研修の機会を持たた)

④ 本町デイ(菊地委員)

- 毎週水曜日に本町集会所で、軽度の認知症の方を対象に実施している
- 稼働率は落ち着いている。地域の方に介護相談等にお越しいただけるように、印象づきやすい暖簾を作製し玄関外にかけている。介護相談の場にしていきたい

⑤ 廿日市デイ(菊地委員)

- 毎週木曜日に、廿日市一丁目集会所で生活機能向上を目的に実施している
- 稼働率が回復せず、ご利用対象者の年齢制限をなしとして、徐々に見学や利用に繋がり始め

ている

⑥ 認知症デイ(菊地委員)

- 登録者の入所等もあり、ご利用状況が不安定。登録者の増加に努めている

(堀川委員)認知症デイと一般デイの違いは何？

(菊地委員)職員体制、部屋の環境などが異なる。ご利用者の状況によって、より良い環境をおすすめさせてもらっている。ご利用者、ご家族の希望が選択の大前提ではある。

(加藤委員)PR不足という状況について、地域の方でお手伝いできることはないか？掲示板等もあるので遠慮なく言ってほしい

(加藤委員)市の健康教室の実施地域が少なく、介護予防の機会が少なくなっているように感じる。健康づくり応援団が、廿らつサロンなどでより頑張ることなのかな？とも感じている。サロンをしている立場からすると、今の月3回以上のサロンを開催することは、世話人にとっては非常に困難だと感じている

⑦ 訪問介護(瀬戸口委員)

- 別紙で実績を説明
- 登録ヘルパーの報連相の在り方や研修の機会が課題である

⑧ 居宅介護支援(瀬戸口委員)

- 実績について別紙をもとに説明。関わる期間の短いケース、独居、キーパーソンが遠方のケースが増加している。必要に応じて、地域の方にも加わっていただき、地域ケア会議を開催している

(小野委員)総合事業についての概略を説明

(矢野委員)総合事業では、早めに予防が出来て介護状態にならなくて済むようにという考え。月3回以上開催のサロンに補助金をだすというのもそのための一つ。身近な場所にサロンがあると、早い段階から近所に出かけられる場ができるという考え

(堀川委員)空き家を活用してサロンを検討したこともあるが、改修費等の問題がある。何か空き家の活用に対する補助は？

(矢野委員)空き家の改修費についても予算請求をしたが、今のところは不可

(中村委員)空き家を活用して、グループでサロンを立ち上げたいということがあれば、社協に相談をしてほしい。市の補助金だけではなく、さまざまな助成金を活用できることがあるかもしれないので

(3) その他(小野委員)

- 廿日市市配食サービス、認知症高齢者家族やすらぎ支援事業、出張介護教室、出張コグニサイズ、ボランティアの活動状況、期間中の出来事、サービス向上受付票の受付状況及びサービス向上委員会の開催状況について別紙をもとに説明
- 清鈴園と廿日市高齢者ケアセンター合同で実施していることは※印で表記している
- 今年度より開催した、廿日市市介護予防・生活支援員養成研修について、その目的や実施状況の概略を説明
- 元喫茶ポップを活用して、障がいを持つ子どもさんを抱える親御さんのグループによるサロンを開催し始めている

2. 各委員から

- (1). 活動状況に対する運営推進会議からの評価
- (2). 当センターの活動に対する要望・助言

(3). その他意見等

- ・ 上記(1)~(3)について、全委員より気づきを発言いただいた

【外部委員】

(織田委員)

- 総合事業のことを初めて聞いた
- ショートステイを複数個所利用して、馴染みの事業所を作っておくと言う発想はなかった、今後参考にしていきたい

(堀川委員)

- 一つの事業所しか利用しなかったら、それしか分からない
- 複数個所を利用することでそれぞれのサービスの違いや良さなどを知ることが出来る
- 以前、ショートステイで看取りをしてもらった経験がある、大変感謝したが、一点だけ、その時に対応してもらった医師の言動に不愉快な思いをした。家族としての気持ちを汲み取ってもらいたが、そう感じ取れない態度が気になった
(村岡委員長)お気持ちを拝聴いたしました

(木岡委員)

- 特別養護老人ホームの看取りについて、以前他の施設で親族を看取ってもらったことあがる。その時は医務室に医師もおられ、安心して最期を迎えられた
- 医療行為が必要になったときに、家族として安心して利用できるとうい

(加藤委員)

- 内部委員の皆さんの傾聴の精神があると感じた。福祉では傾聴が一番大事だと聞いたことがあるが、それを実践されている

(中村委員)

- かけはしと廿日市市社会福祉協議会について、リーフレット及びあいとぴあで説明
- 現在、阿品台地域で、県の社会福祉協議会の支援もあり、「夢あじな」が開設された

(矢野委員)

- 総合事業の考え方を改めて紹介
- 制度と制度の狭間をどうつなぐかが課題
- 地域のチカラを発揮していけるように、廿日市市社会福祉協議会と一緒に取り組みたい
- 医療行為について、グレーゾーンがあると思うが、許容範囲である程度柔軟に対応してもらいたい

【内部委員】

(小野委員)

- 地域の中で話を伺う機会はあるが、当施設のことについて伺う機会は少なく、大変学びや刺激をいただいた
- 資料の提示の仕方として、分かりやすさにかけていると感じた。今後見直して行きたい

(酒井委員)

- 生の声をいただくことで、学びと刺激になった。感謝し、今後のチカラにしていきたい

(瀬戸口委員)

- 一般型のデイサービスと認知症型デイサービスの違い、ショートステイの利用の仕方、きちんと業務の中で説明が出来ていないと感じた。情報をしっかりと持ち、適切に仕事をしていきたい

(谷栖委員)

- 特別養護老人ホームで直接ケアに関わる仕事をしており、外部の声を生に伺う機会もほとんどな

いので、いろいろな学びがあった

- 介護職員の医療行為については、介護職員でも研修を受ければ一部可能なこともあるが、目の前で苦しまれていても法的にはその行為まではできない現状があり、職員も苦しんでいる

(菊地委員)

- 稼働率について、前回のプレ会議時と同じ課題が続いており、心苦しく感じたが、外部委員の方からできることは手伝いますと言っていたが、大変感謝

(加芝委員)

- 以前ショートステイをご利用いただいた方の声を堀川委員からお聞きして、事業所としての事前の説明が十分に出来ていないことを改めて感じた。説明と同意をしっかりと行いたい
- 医療行為のことはいろいろと問題はあるが、個別に考え、できることはさせていただき、出来る限りのことをさせていただきたいが、出来ないことはしっかりと説明していきたい
- ご利用いただく方に「ここにおってえっか」と思っていただけのように努めたい

(村岡委員長)

- 運営推進会議は手探りで進めているが、皆様からの貴重なご意見に感謝し、業務に反映していきたい
- 行政、社会福祉協議会からも参加いただき、多面的に意見交流が出来た。いろいろな立場からの意見をいただくことで、独りよがりのサービスにならないようにしていきたい

3. その他

- 特になし

【資料等】

- ◇ 別紙1－半期活動報告書
- ◇ 別紙2－近況報告書

2016年度第2回委員会 2017年3月8日(水)